

草の根政治の限界と可能性

現在、草の根政治の限界を感じているのが本音です。限界の正体は人々の社会・政治・行政に対する無関心です。これは決定的に草の根政治を阻むものです。過度に保守色の強い市川市では、ヒシヒシと感じます。反面、草の根政治の可能性は、6年前、議員になった当初に比べて、自立した人が増えてきている、自立した社会になってきている点です。NPOの活動を頑張っている等、そういう方たちと繋がっていく事によつて、社会を変えていく事ができるのだと考えています。振り返って見ると、6年前と違い、2年前の選挙では「無所属」という遠慮のない立場から当選させていただきました。6年前もしがらみや利害のない立場でしたが、輪をかけて、全く利害のない立場です。ですので、この2年間、個人の立場から思いつきり制限なく発言をさせていただきました。もちろん、倍返しで返ってきてしまいました。このような経験を通して、ここ6年間、特に直近の2年間の活動で感じることは「一気に理想に近づくのは難しい」という事です。揺れ動きながら、行ったり来たりを繰り返しながら、最悪、ブレながらも、一歩ずつ理想に近づいていくしかないのではないかと考えています。そのような現状の中でも、妥協せずに、悩みながらも、真摯に人に向き合ったり人と関わる活動を続けていきます。街が変わるにはすぐ時間がかかります。しかし、周りから見たら変かも知れないですけど、多くのチャレンジが、やっぱり、街を変え、市川市を変えていくと信じています。市議会や市議会議員という狭い世界での成功・失敗に一喜一憂して、気づかないうちに易きに流されているのではないか：現状が困難だからこそ、その先にみんなの幸せがあるのではないか：試行錯誤の毎日です。今回は皆さんへの提言というより、自分への戒めの色が濃いです。そして、今回、大上段に構えた難しいテーマであると自認しています。でも、やはり言いたい事はひとつです。みなさんで「市川市の可能性」を思い描き、話し合ってみて下さい。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成29年8月3日

増田好秀